

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	日本社会事業大学附属子ども学園			
○保護者評価実施期間	2025年10月20日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年5月26日 ～ 2025年6月6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月17日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達の特性を考慮しながら、様々な活動を取り入れている。	・子ども達の特性を考慮し、繰り返しの活動を行うことで見通しを持ち、安心感や意欲、自信を持って参加できるプログラムを土台としながら、発達段階に応じて様々な活動を組み合わせて実施している。	・子ども達の成長や変化に合わせて適切にアセスメントを行いながら、その時々々の興味・関心に沿った活動を展開していく。
2	担任と保護者が子どもの支援について情報共有できるよう努めている。	・少人数グループの担任制であることで、日々の送迎時のやり取りや連絡帳、面談などを通して、保護者と情報共有する機会を確保している。	・引き続き、保護者との情報共有をきめ細やかに行っていくことで、お子さん達の支援に活かしていく。
3	子どもへの支援と並行して行う保護者支援。	・保護者会やペアレントトレーニング、季節行事など、ご家族にも参加していただく機会を多く設けている。	・引き続き、各行事に対するアンケートや第三者評価、事業所全体の自己評価等のご意見を参考にしながら、より質の高い保護者支援を提供できるように検討・改善を重ねていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達へのきめ細やかな対応や職員が希望する研修を受ける機会等を確保できるよう、より手厚い人員体制が望ましい。	・特性や安全確保の面で個別的な配慮を要する子に対応する人員が必要であるため。 ・グループ担任制のため、子ども達が通園する日時に職員が外出を伴う研修等を受けるには、十分な事前の調整が必要になる。	・必要時には園長・副園長がグループの補助に入るとともに、日本社会事業大学の附属であることを活かして、お子さんの出席状況も踏まえつつ、学生アルバイトを配置する等の対応に努める。 ・参加希望の研修や必要性の高い研修については日程や職員配置を調整し、可能な限り対応するとともに、資料を共有し、内部研修を行うことや、日々の支援について職員間で意見を出し合うことで、支援技術の研鑽に努める。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会が少ない。	・以前、交流企画を試みたことがあるが、お互いの意図や内容を両立させながら実施することが難しく、継続しなかった。本園の園児には、特性や発達段階により、不慣れな人や場所、大人数や大きな音を苦手とする子どもも多く、実施には慎重を要する。	・本園での支援は、毎日通園を原則とし、日々の積み重ねを土台としながら、スモールステップで活動の幅を広げていくことで、子ども達が見通しを持ち、安心して過ごしながら意欲や達成感、自信を持って活動に参加し、様々な学びやスキルを獲得していくことに重点を置いている。そのことについて丁寧かつ誠実に説明し、ご理解ご協力をいただけるよう努める。
3	きょうだい同士の交流機会が少ない。	・園児もきょうだいの年齢が低いお子さんが多いため、園児・きょうだいを含めたご家族全体が安心して日々の生活を過ごせるように、まずは園児と保護者への支援を充実させることに重点をおいているため。	・これまでも行事等の中できょうだい参加するプログラムを行っているが、ご感想などを踏まえて改善しながら、よりきょうだいがい楽しく参加できるプログラムとなるよう検討していく。